

今年度から選挙法が改正され、十八歳から選挙に参加するようになりました。私はすでに十八歳になっていたのですが、人生初の選挙に行きました。選挙を行うにあたって私が感じたことを三つ述べたいと思います。

一つ目は選挙前についてです。小学校や公民館などに候補者のポスターが貼られ、選挙カーが道を走り、選挙が近づいているんだなと感じました。しかし、自分自身、選挙について何も分からないし、各政党の違いも知らず、かといって自分で調べようとは思いませんでした。両親に選挙のことを聞かれたとき何も分かっていなかったのですが、おおまかな政治等の違いを教えてもらい、新聞を読むように勧められました。それからは少しずつ選挙に興味を持つようになりました。

二つ目は選挙当日についてです。学校が終わり、両親と近所の小学校へ投票に行きました。投票に関しては、学校の授業で模擬投票の練習をしていたので、惑うことなくスムーズに投票することができました。

三つ目は学校で行われた主権者教育についてです。素直な感想として、主権者教育の授業が少ないと思います。政府から配布された冊子だけでは知りたいことが全く分からず、読んだけど先生から言われても読まないと思います。若い人たちに政治に対する関心を高めたいならば、学校側が半強制的に指導するべきだと思います。特に各政党の違いや比例代表制については詳しく教える必要があると思います。全く知らないまま投票に行くのと、少しでも知識がある上で投票を行うのとでは若者の意識が変わると思います。

今回、初の選挙を体験して思ったことは正直言ってあまりなかったように思います。世間が騒いでいるほど高校生は関心が薄く、ただ行けと言われていたから行ったような感じがしました。若者に政治への関心を向けるために早い段階で知識を得ることが非常に重要だと感じました。